

おかえりなさいの人

石川さんご一家

父・裕文さんと母・由貴さん、そして甲斐犬のイチローの2人+1匹暮らし。上柏町在住。2歳上の姉・菜野さんは現在留学中。隣家には祖父母が住んでいる。



ただいまの人

石川春緑さん

2001年上柏町生まれ
松柏小→三島東中→三島高校
現在、沖縄県名護市にある名桜大学スポーツ健康学科で、養護教諭を目指して勉強中。



ただいま
おかえりなさい



幼い頃から、よく家族旅行で沖縄に行っていた春緑さん。沖縄に流れる時間が心地良く、また進学先の大学にも魅力を感じたため、故郷から遠く離れたこの地を、夢を叶えるための拠点に選びました。

沖縄から本市までは、飛行機と高速バスなど乗り継いで、約6時間かかります。高速バスの窓から製紙工場の煙突が見えると、「ああ、四国中央市に帰ってきたんだ」と実感が湧くそうです。

春に帰省した時は、一人で三島公園の桜を見に行くという春緑さん。沖縄の桜は他県の桜と種類が異なるため、地元の桜が懐かしくなるそうです。「帰省の度に、公園がキレイになっていることが嬉しいです。特に、子どもの頃によく遊んだタコの遊具の色が塗り替えられていたことが印象的でした」と話してくれました。

また家族とは、三角寺にお参りに行ったり、富郷にある祖父宅近くの河原で、自然を楽しみながら食事をしたりするそうです。



四国中央市に

特集 おかえりなさい。



- 1_ 高速道路から見える煙突
 - 2_ 三島公園こども広場の桜とタコの遊具 (中曽根町)
 - 3_ 紅葉に染まる三角寺大師堂 (金田町)
 - 4_ 山あいを流れる銅山川(富郷町寒山川)
- ※遊具入替工事のため、三島公園こども広場は2月末まで使用できません (タコの遊具は残ります)



2020年1月16日に、国内で初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから3年—
新型コロナウイルスに対する行動制限や自粛要請のない、初めての年末年始となる今年は、久しぶりに本市に帰省する人も多いと聞きます。
そこで今回は「帰省」をテーマに、帰ってくる人と迎える人、それぞれの視点で、本市の魅力を再確認していきます。

離れていても
つながっている

今回取材をさせていただいたのは、大学進学のため3年前から沖縄県にお住まいの石川春緑さんと、上柏町で娘の春緑さんの帰りを待つご家族です。
年に一度は帰省しているという春緑さんと、それを迎えるご家族から、帰省に関するさまざまなエピソードをお聞きしました。
そこには、離れていても家族をつなぎ留める「四国中央市の魅力」がありました。

石川さんちの

しこちゅ〜土産

離れていても、四国中央市を感じる事ができるモノ、ふるさとの魅力を伝えることができるモノ。みなさんの「持たせてあげたい」「持って帰りたい」、しこちゅ〜土産は何でしょうか。

持たせてあげたい

沖繩に帰る春緑さんに、ご家族が必ず持たせてあげるのが、「おばあちゃんの手作りみそ」です。添加物を一切使っていないため、体に優しく、何よりおいしいこのみそを、春緑さんは愛用しています。

また、知り合いが作ってくれる「媛いりこの佃煮」や、「富郷のこんにやく」で作った手作りこんにやくも、沖繩に帰る時に持たせてあげる、石川家の「しこちゅ〜土産」です。

この他にもご家族は、いもたきが好きな春緑さんのために、「伊予美人」を送ったり、富郷のお米やお茶を送ったりして、春緑さんにふるさとの味を届けています。



石川家の カツ丼

Revival "suirantei"

石川さんちの 帰省メシ

「帰省メシ」とは、帰省した時に食べる故郷・家庭のご飯です。
「帰ったら食べたい!」「帰ってきたら食べさせてあげたい」。みなさんの帰省メシはどんな食べ物でしょうか。

「母は料理が上手なので、何でもおいしいです。帰省前にリクエストを聞かれますが、いつも母にお任せです」という春緑さん。一つ挙げるならと、今回選んでくれた帰省メシは、「カツ丼」でした。

このカツ丼、かつて三島小学校前にあった中華料理店で、閉店した今でも、三島のソウルフードとして語り継がれている「翠蘭亭」のカツ丼を、母の由貴さんが1年の歳月をか

けて再現したものです。

独特の甘いタレで味付けしたカツを、玉ねぎなどの野菜を入れず、卵だけとしてしているのが特徴です。

石川家では、外食と言えば翠蘭亭のカツ丼だったそうです。そのため、家族が満足する味に仕上げるのは至難の業だったと、母の由貴さんは振り返ります。しかし、その甲斐あって、石川家のソウルフードとして、あのカツ丼が復活したのです。

中学ではソフトボール、高校ではラグビーで汗を流した春緑さん。試合の前日には、勝負メシとしてカツ丼を食べていたこともあり、とても思い入れのある味だと話してくれました。

石川家のカツ丼は、帰省しないと絶対に食べられない、離れていても家族をつなぎ留める、まさに「帰省メシ」でした。



肩ロースを使うのがポイント



ヒミツのタレで味付けをしたら卵が完全に固まるまで煮込む



ご飯(富郷米)に乗せて完成

贈りたい

沖繩でお世話になっている人や友人へのお土産にと、春緑さんがいつも買って帰るのが、「いわくら太鼓」や「ひうち焼」です。

「沖繩の人たちに、四国中央市のおいしいお菓子を知って欲しい」と思い、小さい頃から食べていた馴染みの味を贈ったことがきっかけだったそうです。もらった方はみなさん「おいしい」と言って喜んでくれると話してくれました。

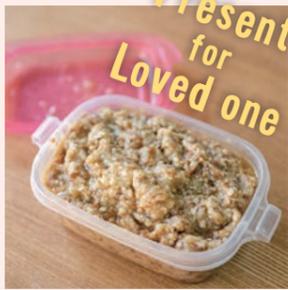
今回はご紹介することができませんでしたが、本市にはまだまだたくさんの特産品・名産品があります。みなさんにとっての「しこちゅ〜土産」を携えて、大切な人にふるさとを紹介してみませんか。

おわりに

「ただいま」のみなさん、そして「おかえりなさい」のみなさん、年末年始はいかがお過ごしでしょうか。

昨年は、3年ぶりに紙まつりや秋祭りが開催されるなど、四国中央市でも少しずつにぎわいが戻ってきています。

景色、イベント、グルメ、名物など、久しぶりに会った家族や友人たちと、ふるさと四国中央市の魅力について、語り合ってみませんか。



おばあちゃんの手作りみそ



ひうち媛いりこ



伊予美人



富郷茶



画像提供 四国中央市物産協会



ひうち焼



いわくら太鼓